

## 5. 大淀川の川づくりの進め方

### 5.1 関係機関、地域住民との連携

大淀川を常に安全で適切に利用・管理する気運を高め、より良い河川環境を地域ぐるみで積極的に形成することを目的に、河川管理者として収集した情報や河川利用に関する情報等を掲載したポスター、パンフレット、副読本を作成するとともに、インターネット等により幅広く PR 活動を行い、情報の共有化を図ります。

特に、大淀川の河川清掃やイベント等の地域住民の自主的な活動に対しては、安全で多数の地域住民が参加できるよう、活動に必要となる河川情報を積極的に提供する等の支援を行います。

また、水生生物調査や簡易水質調査・川の勉強会等を関係機関・地域住民と協働して行い、流域の役割・水の大切さ・河川水質保全の重要性等の啓発活動を実施します。

これらにより、地域住民が大淀川に関わる機会を設け、日常の維持管理(川の 365 日)においては、従来の河川管理者だけが行ってきた河川管理から、「大淀川は地域みんなのかけがえのない財産」であるとの認識に立った住民との協力・分担による河川管理への転換を図ります。

また、森林は山から海に至る健全な水循環を確保する上で大きな役割を果たしているため、森林の多面的な機能が保全されるよう森林保全に取り組む関係機関及び、市民団体等が行う活動に協力するなど連携に努めます。

### 5.2 地域住民の関心を高めるための広報活動

大淀川の特性と地域風土・文化を踏まえ、母なる川として「大淀川らしさ」を生かした河川整備を進めるため、ホームページ・広報誌やラジオ・テレビ・ケーブルテレビ・新聞などの地元メディアを利用して広く情報提供し、住民との合意形成に向けた情報の共有化、意見交換の場づくりを図るなど関係機関や地域住民との双方向コミュニケーションを推進していきます。

さらに、川遊びや水生生物調査など水辺の自然体験活動等の機会の提供を支援し、これらの自然体験活動の指導者の育成を図るとともに、将来を担う子どもたちへの環境学習を積極的に支援するなど、住民が大淀川への関心を高めるための活動を行います。



図 5.1

広報活動